

自立活動だより

紀北支援学校自立活動部

令和5年11月発行

11月の自立活動だよりは、小学部の知的障害学級（通称：1ブロック）、肢体不自由学級（通称：2ブロック）より、1年生の自立活動の取組について紹介します。

今年度の小学部は1ブロック120名、2ブロック16名の児童が在籍しています。自立活動の授業では日常生活をしていく上での困難な課題を克服するためのスキルを身につけるために、各児童の実態をもとに学習課題を考え目標を設定し、達成するための必要な学習内容が学べるよう、日々取り組んでいます。

【1ブロックの取組】

1年生 Aさんの事例

☆ねらい

『人間関係の形成』

・教師や友だちと一緒に、学びを共有しながら意欲的に取り組む。

『環境の把握』

・全体の中から必要な情報を見つけ活用できる力を身につける。

『コミュニケーション』

・体験したことや思いを教師や友だちに話し伝える。

☆活動内容

・見る、聞く力を高める課題を1つずつ、友達と遊びが共有できる課題を1つ設定し取り組む。

○見る力を高める（シール貼り、線上をハサミで切る、図形描写、間違い探し、なぞり書きなど）

○聞く力を高める（スリーヒントクイズ、絵本の読み聞かせなど）

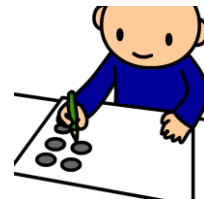
○遊びを共有する（「ジェンガ」を使って、①順番を守る。②親指と人差し指でブロックを掴みそっと引き出すなどの簡単なルールを守りながらゲームをする。）

☆経過・成果

環境の把握では、見る・聞く力を中心に取り組む中で、図形描写（左のマス目に書かれた図形を見ながら右のマス目に左と同じ場所に同じ図形を書く）は、全体の形は分かっているが、形を見てどの位置から書き始め、どの位置で書き終わればいいのか分からない様子（空間認知力の弱さ）が見られました。そのため、全体の中から細部への認識を高める取組を活動内容に取り入れることで、マス目内の点線や書き始めに示した点を手掛かりとして、マス目のどの位置から書き始めればいいのか分かるようになり、今では、点線や書き始めの点がないマス目の中に、手本を見ながら平仮名で自分の名前が書けるようになりました。

コミュニケーション・人間関係の形成では、4月当初は、教師や友だちに自分から声をかけ一緒に話したり遊ぼうとしたりする様子が少ない本児でした。そのため、毎時間の自立活動の最後に「ジェンガ」を友だちと一緒にする取組を続けました。すると、次第に「そのブロックとったらあぶないかも。」やうまくブロックを取れた友だちに「やった〜」などと言いながら、自ら友だちに話しかけることが多くなりました。また、逆に自分がうまくブロックが取れた時に友だちに褒められると、とってもうれしそうな表情が見られ、先日初めて時間内にジェンガが崩れることなく終わった時には、みんなで「やったー」と両手を挙げ喜び姿は、そばで見ていて微笑ましかったです。

今では、自分の思いを話したり友だちと遊びを共有したりしながら、元気いっぱい笑顔で過ごしています。



【2ブロックの取組】

1年生 Bさんの事例

☆ねらい

・足を交互に出して進むことができる機会を増やす。（健康の保持、心理的な安定、身体の動き）

・筋力の向上を図り、座位姿勢や立位姿勢を安定させる。（健康の保持、身体の動き）

・自分から関わることでできる教材を増やす。（心理的な安定、環境の把握）

☆活動内容

・写真やイラストカードを用いて、活動のスケジュールを教師と一緒に確認する。

・行き先等を教師と一緒に決めたりしながら、SRC-Walkerでの歩行練習に取り組む。

・座位姿勢では興味のある物を見ながら行う等、なるべく自分で身体を支える。

・起立台を用いた立位姿勢では両足に体重を乗せた状態で姿勢を保持する。

・様々な種類のおもちゃ、本、教材に触れたり、操作したりする。

☆経過・成果

授業全体でカード等を用いて活動のはじめや終わりを伝えるようにしたことで“カードが全部なくなったら終わり”ということを理解しつつある様子です。初めての物や活動に対して抵抗感があるので、興味のあるおもちゃ（ぬいぐるみ等）をきっかけに、注視して手を伸ばす、引っ張る、入れる等の活動に取り組んでいます。気に入った物を手放すのが難しい場面もありましたが、『おしまいボックス』（写真）を用意することで、自分のタイミングで入れられるようになってきました。

また、学校生活全体を通して腹筋群の筋緊張を高めるために、様々な姿勢になれるような機会を設定しています。興味のあるものがある時に、自分から身体を起こして座位姿勢になり、支えがなくても数十秒程度姿勢を保持する場面も増えてきています。起立台での立位にも15分程度取り組み、下肢に体重を乗せた状態を保持することができています。姿勢変換や姿勢の保持につなげていきたいです。SRC-Walkerでの歩行練習では、年度当初は身体を反らし、後方が気になっている様子でしたが、取り組みを重ねる中で歩ける距離も長くなってきました。現在は、身体を反らしてしまう事も減り、足でしっかり床を蹴ることができる機会も増えてきました。足を交互に出せる機会も増えてきています。

2学期からは、行き先や会いたい人を写真カードから選ぶ取り組みも始めました。歩いた先の楽しみになると共に、写真やカードの意味の理解や、自分で選ぶ楽しみ、教師や周りの人とやりとりをする機会に発展してほしいと考えて取り組んでいます。



『おしまいボックス』

